

別記様式

議 事 録

会議の名称	令和4年度第1回岩倉市総合教育会議
開催日時	令和4年8月22日(月)午後1時から午後2時まで
開催場所	岩倉市役所 7階 第1委員会室
出席者	<p>【構成員】</p> <p>岩倉市長 久保田 桂朗 教育長 野木森 広 教育長職務代理者 江口 雅啓 教育委員 丹羽 礼子 教育委員 松本 恵 教育委員 押谷 誠 教育委員 岩井 義尚</p> <p>【事務局】</p> <p>教育こども未来部長 長谷川 忍 学校教育課長 近藤 玲子 学校教育課管理指導主事 佐藤 振一郎 学校教育課主幹 酒井 寿(学校教育グループ長) 生涯学習課長 佐野 隆 子育て支援課長 西井上 剛 総務部長 中村 定秋 秘書企画課長 秋田 伸裕 秘書企画課主幹兼 小出 健二(企画政策グループ長) 市制50周年推進担当 秘書企画課主任 伊藤 絵美子</p>
会議の議題	(1) 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の結果に係る意見交換について
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
会議に提出された資料の名称	・次第 ・資料1: 岩倉市総合教育会議構成員名簿 ・資料2: 令和3年度点検結果報告書(案)
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	議事録作成者 秘書企画課 伊藤 絵美子

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項

（1）教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の結果に関する意見交換について

押 谷 委 員： 「自分によいところがあると思う児童の割合」がありましたが、どのように調査しているのですか。

事 務 局： 毎年実施されている全国学力・学習状況調査に同じ質問項目があり、その結果を活用しています。

押 谷 委 員： 私は産業医をやっており、産業医の間で心配されていることがあります。最近の若者は自己肯定感が強過ぎることです。例えば、職場で仕事が上手くいかなかった場合、自分を省みるのではなく職場や上司のせいにし、自分は正しく、職場が自分に合わないと思うような若者が増えています。また、「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」の指標がありましたが、夢や目標を持っていないが、自己肯定感だけが高い児童生徒がいると心配です。

最近は、「みんな一緒、みんな一番」という思考が強く、子どもたちが自分の立ち位置が分からなくなっています。それが、自己肯定感が強過ぎる若者がいることに繋がっているのではないかと思います。

「人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合」の指標も全国学力・学習状況調査に同じ質問項目があるのですか。

事 務 局： はい、そうです。

押 谷 委 員： 最近の子どもは、こう回答した方が評価がよいと考え、回答する子がいます。

教 育 長： アンケートを回答する状況や質問の仕方によっては、同じ質問でも指標が低く出たり高く出たりします。そのため、子どもが評価を考えて回答しているかどうかは分かりません。しかし、全国学力・学習状況調査は、同じ条件で質問しているので、経年変化としての信憑性はあります。

自己肯定感が強過ぎることが、社会問題になっているとの認識はありませんでしたが、学校現場は自己肯定感がないことが問題で、児童生徒の自己肯定感を高めなければいけないと考えています。学校教育者の講演を聞くと、国際社会で生き抜くためには、これまでのように協調性だけでなく、自己主張ができる児童生徒を育てようという内容のものがあります。

押 谷 委 員： 日本人の良さを残しつつ、個性を大切にしなければなりません。自己肯定するにも自分の立ち位置を知ることが大切です。

教 育 長： 自分の立ち位置を知ることは大切です。最近の学習では、振り返りを重視しています。自分を客観的に振り返ることによって自分の立ち位置を探ることになるのではないかと思います。

丹 羽 委 員： 子どもたちも、「みんな一緒が一番安心」という考えから、人それぞれ違っていてもよいという考えに変わってきています。

自分の立ち位置が分かるのは、いくつくらいからなのでしょう。

岩 井 委 員： それを気付かせるのが大学教育だと思います。以前より気付くまでに時間がかかっているように思います。

松 本 委 員： 自己肯定感とは、自分によいところがあると思えることだと思います。また、そのベースは、自分のことを好きと思えるかだと思います。小さな頃に、自分はここにいてよいと思えることが大切です。それは、一般的に家庭で生まれ、育てられ、自分の存在意義を認識することが教育のベースになっていると思います。

市 長： 市役所には職場内の立ち位置として人事評価があり、上司と面談し仕事を進めています。組織の中にも立ち位置があります。

教 育 長： 人事評価が高い人でも、自分の立ち位置が分からない人もいるかもしれません。

丹 羽 委 員： 営業職の方に、仕事をする中で何を重要視されているのかを聞いたことがあり、協調性だと教わりました。

教 育 長： 営業職では、昔ながらの日本の教育が生きているということです。

押 谷 委 員： 個人的には、昔の教育の方が良いと思います。今と昔の子どもの精神年齢を比べると、今の子どもは昔より約3年幼いように思います。今の子どもは物事を受け止める心のキャパシティや、対人関係を修復する能力が劣っているように見えます。何が原因なのでしょう。

教 育 長： 学校ではなく、社会が原因です。日本社会の経済が長く低迷しているのは、雇用を守ってきたからだとされています。欧米では何かあれば雇用は打ち切られるので、厳しい環境の中で自分を磨きステップアップしなければなりません。日本と欧米の違いはそこだと思います。日本の子どもは幼いということ、モンゴルとの交流で感じます。モンゴルは自国だけでは生活ができないため、若者のほとんどが他国に出ます。そのためハングリー精神が旺盛です。日本の中学生とモンゴルの学生との交流では、その違いを感じてもらうことも必要だと考えています。

押 谷 委 員： 学歴社会が良いとは思いますが、競争がなくなっていました。立ち位置が分からない子どもがいるということに繋がっているのではないかと思います。

教 育 長： 学校は社会に合わせざるを得ない場合もあります。将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合が低下しているのは、全国的な傾向です。また、岩倉市では青少年問題協議会が同じ質問を14年間しており、経年変化をみると、

割合は年々低下していますが原因は分かりません。大人も夢や希望をあまり持てない社会になっているのかもしれませんが。子どもは大人の鏡なので、大人が子どもに未来を問いかけたとしても、夢や希望を持つのは難しいのかもしれませんが。

松本委員：メディアでは少子高齢化の話題が流れます。その情報を子どもたちが見ることによって、子どもたちが将来に夢や希望が持てなくなっているのかもしれませんが。

丹羽委員：相談等の家庭環境の支援体制の整備について、スクールカウンセラーは一部の学校、スクールソーシャルワーカーは市役所の学校教育課にしか配置されていません。深刻な悩みを持つ子どもや親がきちんと相談できているのか疑問です。

押谷委員：相談予約は各学校に連絡をするのですか。

事務局：各学校のスクールカウンセラーに予約をします。また、市で雇用している子どもと親の相談員も常駐していますので、気軽に相談していただける体制です。

押谷委員：各学校にスクールカウンセラーを配置するのではなく、相談窓口は一括して市が行った方が、効率的ではないですか。

事務局：子どもと親の相談員に、それぞれの学校で相談できることが大事だと考えています。適応指導教室でも相談を受付けていますし、学校教育課にはスクールソーシャルワーカーもおり、相談していただけます。

丹羽委員：スクールソーシャルワーカーはどれくらいの頻度で市役所にいますか。

事務局：毎日です。スクールカウンセラーは1週間に1回程度ですので、予約待ちになった場合は、適応指導教室にいるカウンセラーに繋ぐように促しています。学校で気軽に相談できることも大切で、学校から離れた場所で相談できることも大切ですので、それぞれが連携を取っています。

教育長：今年度から適応指導教室のカウンセラーと学校教育課のスクールソーシャルワーカーが各学校を回る機会を設けています。その結果、各学校のスクールカウンセラーとの相談が予約待ちの場合は、スクールカウンセラーからの紹介で適応指導教室のカウンセラーの相談を受けられるようになり、相談ができないといった事象は緩和しつつあると思います。

(2) その他

事務局から未来寄合及び学校給食に関するアンケートについて説明

4 その他

事務局：次回の会議は12月26日を予定しています。

市長：以上を持ちまして本日の会議を終了とします。本日は、お忙しいところありがとうございました。